

# 一 幼兒における社會的行動の發達

依田新  
久米京子

## 一、問題

ビューラー等によるミ、幼兒における社會的行動は可成り早くから出現するものであつて、笑ひ、反抗等がその顯著な標徴されて居る。之等の點について一幼兒の觀察記錄に基づき社會的行動發生の様相を考察して見ようと思ふ。觀察された幼兒は久米の長男であつて觀察者は久米京子である。(一九三三年一月三十日に生る)

先づ幼兒における社會的行動として次の五つの面をとり上げ、この點から觀察錄を整理したのである。

- 1、他人に對する積極的態度(笑ひ)
- 2、他人に對する消極的態度(はにかみ、人見知り)
- 3、他の子供に對する態度(遊び)
- 4、自己主張(泣き、怒り)

## 5、禁止、命令等に對する態度(聞き分け)

初めに之等の各々についてその發達の様相を述べ、最後に之等を綜合して社會的行動の發達の位相を明かにしたいと思ふ。

## 二、觀察

1、他人に對する積極的態度 他人に對する反應として最も早く觀察されたのは、傍にゐる人の移動を目で追ふことであつた。例へばこの子供に於ては生後十九日に於て「人が近づくとよくその顔を見、動くとき暫くの間目で追ふ」といふ記載が見られる。勿論、この様な行動を以て直ちに社會的行動と見做すことはできないが、同じ様な行動が三十二日目になるさもう少しはつきり現れてゐる。即ち、その記述による「叔母ちゃんが動くとき首まで廻してその後

を追ひ、見えなくなるゝ一寸泣いた」がある。

他人に對するもつゝ明瞭な積極的な行動としては、普通言はれてゐる様に「他人に對する微笑みをあげる」ことが出来るが、これはこの子供に於ては生後四十六日（一月十六日）に現れてゐる。それまではあやすゝ今にも笑ひさうに見えながら笑はず、この日朝非常に機嫌がよいのであやしたら始めて笑つた報告されてゐる。勿論之以前に於ても笑ひが全然現れなかつたのではない。唯他人に對する反應としての笑ひは之が初めてであつた。併しこの笑ひは未だ全く受動的であつたが、能動的に他人に對して笑ひかけるといふのは、もう少しおくれで現れる。即ち生後五四日（二月二十四日）に「他人が近づくゝ積極的にはゝゝゝみかける」があり、六三日（二月三日）には「朝起きて初めて人の顔を見るゝ必ず子供の方から積極的に笑ふ」がある。そしてその笑ひは次第に明確になり、活氣をおびてきて、二ヶ月の終りから三ヶ月にかけて「あやすゝよく笑ふ」ゝか「よく聲を立てゝ笑ふ」ゝいふ様なことが觀察されてゐる。

この笑ひは更に四ヶ月に入るゝ、表情も深くなり、愛情の表示として現れてくる。例へば四ヶ月十八日には「笑ふ時又は笑つたあゝ抱かれてゐる人の胸に顔をこすりつける」ゝあり、四ヶ月二十六日には「笑ふ時目を細くし顔に表情が深くなつた」ゝある。注意すべきことは、同時にこの頃か

ら暫くの間他人に對して餘り笑はなくなり、人によつて親疎ができてゐることである。即ち、表情が豊かになるゝいふことはこの頃から明かに感情が分化し始めたことを示してゐるのである。

それが又六ヶ月の終り頃から八ヶ月頃にかけて他人に對して非常に愛想よくなり未知の人にも自分から微笑みかけ、戸外や電車の中などでも矢鱈に誰にでも笑ひかけたり、聲をかけたたりしてゐる。實に笑ひが一層意識的、技巧的になされるに及んで笑ひの社會的意味は一段ゝ明かになるのであるが、興味ある事は九ヶ月頃に於てかゝる笑ひ、即ちお世辭笑ひゝも言ふべきものが現れてゐる。即ち九ヶ月三日の所に「戸外にゐる人にお世辭笑ひらしきものをする」ゝ記載されており、九ヶ月十日の所には「ほしいものがある時、抱かれたい時なき、しきりにお世辭笑ひをする」ゝがある。或ひは一年一ヶ月の所に「皆が笑つてゐるゝ、自分も大きな聲を立てゝ笑つて人々の注意を惹かうとする」ゝいふ様なことが報告されてゐるが、是等はすべて技巧的な笑ひの初まりと言つてよい。

笑ひが意識的になり、技巧的になるゝいふことは、自他の區別が漸く出來始めたことであるからして、今迄の様に周圍の場面的強制によつてひきずられてゐた行動の他に、例へば十一月十二日に觀察されてゐる様に、自分の傍に

る未知の人に無關心でゐられる様な行動も現れて来る。

又、この頃から次第に社交的になり、一年二ヶ月頃には來客を歓迎し、愛嬌をふりまいて、大人を相手に遊ぶ様になつてゐる。更に一年六ヶ月の頃には「大人さふざけて遊ぶのに興味を持ち」、「相手がほしい時には大人の邪魔をしてふざける」といふ様なことが觀察されてゐる。

2、他人に對する消極的態度 人見知りがいつ頃から現れてゐるか言ひますと、この子供に於ては生後百十四日(三ヶ月二十四日)の日に、未知の大人の顔を見てひきく泣き、母親が抱き上げてやるまで泣きやまなかつた、といふのが最初であります。既に述べた様に今迄はあやすとよく笑つたものが、この頃から次第に笑はなくなり、「初めての人には泣いたり(四月二十一日)、二十七日」、「他人があやすと笑はないでその人の顔を inspect する(調べてみる)様子が見える(五月二十八日)」のである。この頃に感情の最初の分化があるを見てよいことは前項で述べた通りである。

この様な人見知りは五ヶ月頃まで顯著に現れてゐるが、その後はむしろ積極的に愛嬌をふりまくといふ様な行動が暫く前面に出てゐる。それが生後一年二ヶ月から四ヶ月頃にかけて、時々初對面の人をはづかしがつて泣いたり、はづかしさうな表情をして母親のかげにかくれたりする様なことが、しばしば觀察されてゐる。既に述べた様にこの頃

は一面に於ては非常に社交的になり、愛嬌をふりまいてゐるのであるが、之は互ひに矛盾した現象と見るよりは、ゲノティービッシュ(根元的)にはむしろ同一のものを見るべきであり、社會的交渉の發展における一位相と見るべきであると思ふ。

3、他の子供に對する態度 既に多くの人によつて言はれてゐる様に幼児の社會的交渉は先づ大人との間に成立し、他の子供に對する社會的反應は著しくおくれて現れるのである。この子供に於ても生後百六十二日(五ヶ月十二日)に「よその子供を見てよく笑ふ様になつた」と初めて記載されてゐる。この頃から子供に對する關心は段々顯著になり、次の様な觀察がなされてゐる。

六ヶ月二十三日 他家の子供が來たら大よろこびでハシヤイで乳も落ちついて吞まず。

併し、この頃までは單なる關心の表現に止まるが七ヶ月頃からもう少し積極的に呼びかける様になる。即ち、

七ヶ月二日 三歳の女兒を見てアと言つてチョツカイをかけ行つてしまふ泣く、

八ヶ月三日 抱かれて歩いてゐる時、子供が通るに必らずふり返つてその方を見る、

八ヶ月二十四日 母の會に出席し、隣席の十一ヶ月の子供を見てアと言つて話しかけ、そのうちに手を出した、

あちらも手を出したらギョット握つてその子を泣かせた、  
八ヶ月二十七日 相談所で會つた子供にアーミ言つて話  
しかける、

九ヶ月二十四日 散歩をしてゐても子供があるさ、その  
方へ手を出したり、體をその方に向けてニヤニヤ笑つたり  
してゐる、

十一ヶ月十七日 外へ出て小さな子供を見るミアツタア  
ツタミ言ひハハミ話しかける、

この様な行動は一年三ヶ月頃まで續いてゐるが、まだそ  
こには二人の子供同志の間に積極的には行動的交渉は始め  
られてゐない。それが一年三ヶ月頃から兩者の行動的交渉  
が開始されてゐる。即ち、隣りや近所の子供が遊びに來る  
のであるが、初めの中はお互ひに相手の顔にいたづらした  
り、つき倒したりして、結局どちらかが泣いてしまふのが  
落ちであつて、二人で一緒に遊ぶさいふ所までは却々行か  
ない。殊に一年六ヶ月から七ヶ月頃にかけては後に述べる  
様に非常に所有慾が強くなつてゐるので玩具なども獨占し  
てしまつて一緒に遊ぶさいふことは殆ど出来ない。

それが一年九ヶ月頃からは次第に遊べる様になり、殊に  
少し年上の子さによく遊ぶ様になる。即ち、

一年九ヶ月二十一日 近頃近所の少し大きい女の子さよ  
く遊ぶ。

一年十ヶ月二十九日 この頃は友達さよく遊べる様にな  
つた。

4、自己主張 社會的になるさいふこは自己の意識化  
であり、その意味に於て反抗さいふこが自我意識の發達  
の重要なメルクアルミ(特徴)なるのである。それ故に  
次に反抗さいふこを中心ミして自己意識の發生を後づけ  
て見ようと思ふ。

先づ自己欲求の最も原始的な表現は「泣く」さいふ事に於  
て示されるのであるが、この子供の生後四十六日(一ヶ月  
十六日)に「抱きぐせがついたが、抱いてやらないミ足をふ  
ん張つて泣く」さいふ觀察があるが、之を以て自己欲求の最  
も萌芽的な表現ミ見るこができる。

生後八十六日(二月二十六日)には「お腹のすいた時、眠い  
時、意志を現す時の泣聲はつきり分化す」ミあるが、こ  
に欲求の分化を見るこができる。更に生後五六ヶ月にな  
るこ、少し冴へる様になつた爲に思ふものを取らうミして  
うまく行かないミ泣き出したり、自分のしたいこがはつ  
きりして來るに伴ひ、思ふ様に行かないミ愚圖る様なこ  
が多くなつてゐる。是等は自己の欲求が一段ミ明確になつ  
たこを示すものである。

初めて「怒り」の表情が現れたのは六ヶ月十九日で「親戚  
の小學生が胸をいぢつたら怒る様な表情をしてその手を拂

のけた」こいふことである。九ヶ月頃からの怒りが非常に多くなり、欲求を表現する爲におどす様に泣いてみせたり、何かしようとしてゐるのを邪魔するに非常に泣いて怒るのである。この様な所業が十二ヶ月頃までつゞくのであるが、これは既に述べた様に、丁度笑ひがこの頃から意識的技巧的になつて來たこと、對應し、欲求の分化或は明確化を示すものである。

生後一年目の前半は既に述べた様にむしろ非常に社交的な行動が前面に現れてゐるのであるが、一年五ヶ月頃から再び自己主張が強く現れて來てゐる。即ち、非常に慾深になり、玩具を獨り占めし、思ふ通りにならないとわざと泣いて見せたりして、却々のきかん棒になつてゐる。

#### 例へば

一年五月二日 近頃慾深くなり、玩具を他人に貸さず人がゐるを自分で抱へられるだけ抱きこんでしまふ。

一年六月九日 非常に自己を主張する様になり、坂なぎで手をこつてやらうとしてもボーチャン／＼言つて獨りで登りたがる。

一年六月二十三日 自分の意志を通したがかり思ふ様にならぬを泣きし、この傾向は益々強くなる。

一年七月二十三日 此頃少し氣に入らぬことがあるとききガンバツてじだんだふむ。

一年七月二十七日 非常に所有慾が出て何でもボーチャン／＼言つて主張し、一寸でも人が持つたりするミトツタトツタと言つて怒り且つ泣く。萬事そんなど非常に氣むづかしくなつてゐる。

それが九ヶ月頃から又次第に友達とも遊べる様になり、滿二年の始めに妹が生れ、その嫉妬から一時非常に我儘、強情になつてゐるが、間もなく、二年二ヶ月になるまでの聞き分けもよく出来る様になつてゐる。然るに又三年の始め頃から又反抗的になり、きかん坊になつてゐる。併し同時に一層獨立的になり、一人でもおさなしくよく遊び、何でも一人で出来る様になつてゐる。そして三年五ヶ月頃には非常に聞き分けがよくできる様になつてゐる。これを見るに、ピューラーの言つてゐる様な所謂反抗期といふのが餘り明瞭に現れてゐないで、むしろ一年七ヶ月を中心とする數ヶ月に、三年の始まりの數ヶ月に現れてゐる様に思はれる。尙之についてはもう少し多くの材料を集めて見なければ何とも言はれないと思ふ。

#### 三、結論

以上の觀察を總括してみるとき、生後四、五十日頃に於て自己の萌芽らしいものが現れ、之が一方には微笑になつて現れ、他方には泣きになつて現れる。

四ヶ月頃から欲求が可成り明確になり、感情も分化し、

表情豊かになり、愛嬌も深くなる。同時にこの頃から他の子供への關心が現れて来る。

九ヶ月頃から欲求の阻止に對して怒りを示し、自己に抵抗する他の存在が次第に意識されてくる。この様な自他の分化がお世辭笑ひとなり、愛嬌となり、はにかみとなり、或は怒りとなりて現れてゐる。

一年五ヶ月頃から強い自己主張による一時的困亂が現れるが、數ヶ月にして聞き分けもできる様になり、自然他の子供とも一緒に遊べる様になる。

三年の始めに又一時反抗的になるが、同時に著しく獨立的となり、數ヶ月後には又聞き分けがよく出来る様になつてゐる。

(附記) 本稿は昭和十六四月四日九州帝國大學に於ける第八回心理學大會に於て發表せるものである。

## 今年の保育講習會

今年は文部省主催の保育講習會は開催せられないといふことに漏れ聞きました、よつて本會主催で左記の通り開催いたします。

期間 七月二十二日から二十六日まで五日間毎日

午前八時より午後四時まで

會場 東京女子高等師範學校講堂

科目 本年は特に國民學校の教育に對する保育者

としての理解に主點を置き、倉橋主幹の總説の外、國民科、理數科、藝能科音樂等に就て各専門權威のお話を伺ふ事とします。更に戸倉講師の新遊戲、及川講師の新手技は例年の通り會員諸君に有益なお土産を頒ち得ることと信じます。

昭和十六年六月

日本幼稚園協會